

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970102477		
法人名	医療法人新仁会		
事業所名	医療法人新仁会春日グループホーム雪月花 花ユニット		
所在地	奈良県奈良市白豪寺町900-1		
自己評価作成日	平成24年3月12日	評価結果市町村受理日	平成24年5月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・施設周辺は山の辺の道が間近い緑が多い環境であり、四季折々の美しさや変化を体感することが出来る。</p> <p>・同法人奈良春日病院の認知症専門の神経内科医である副院長が主治医である。施設開設時より関わりがあり、定期的に薬剤師同行で往診を行っている。通常の受診のほか急変時にも病院と連携をとり、24時間の対応が可能である。受診のほかリハビリ・音楽療法・イベントなどの柔軟な支援も行っている。</p>
--

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kohyo-nara.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会		
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内		
訪問調査日	平成24年3月28日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当事業所は、春日奥山の麓の自然豊かな場所に、落ち着いた色調の建物で新設・開所されています。事業所内は清掃が行き届き、また、採光や室温への工夫・季節感への演出等穏やかに過ごせる環境が整っています。加えて、看護師の配置もあり、健康・医療確保への配慮がなされています。このような環境の中で入居者は、一人ひとりのリズム・ペースで特技等を活かしながら穏やかに生活されています。</p>
--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との交流、穏やかで安らぎのある暮らしを理念・指針にもりこみ、事務所・各ユニット玄関に掲示し常に念頭に置き行動している。又申し送り時に音読し、入居者主体の自己実現に向けて援助していけるように努めている。	自主性や人格の尊重を基盤に地域社会との関わり重視の理念があり、実践に活かすために、理念の掲出・会議や引継ぎ時での確認等に取り組みられています。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し、散歩の際には挨拶を交すなど日常的に地域の人々と交流している。地域のイベントの実行委員会に加わり、秋祭りでは施設前にお神輿の立ち寄りもある。当施設のイベントにも参加していただくよう声掛けしている。	自治会への加入はもとより、地域で開かれているサロンや防災訓練・自主清掃活動の実践・事業所内催事への案内等による地域との積極的な交流に努められています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の自治会や地域の集会で、認知症に関する勉強会に依頼を受けて参加したり、地域のサロンや催し物などに入居者と共に参加をしている。定期的に出演参加している地域のイベントでは今年、出演順で最終を依頼されるなど、地域の人々に楽しんで貰っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間の開催予定日(年6回)を決めて、運営推進会議を開催している。地域包括の担当者・家族の代表、自治会代表・市町村担当者と共に、事業所の活動・入居者の状況や地域交流について報告し、さまざまな意見を交換して、サービスの向上に活かしている。	幅広い構成メンバーによる運営推進会議は定期的に開催されています。会議では、入居者の状況・地域交流等の報告や、運営上の諸課題について意見交換がなされ、サービスの質の確保と向上に繋がられています。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営に関わる疑問点や相談については、運営推進会議の際、情報交換を行うほか、電話やメールで適宜問い合わせしている。同法人内事業推進課が市町村担当者と常時行き来しており、それらの意見助言を活かしてサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営上の諸課題や入居者処遇の有り方等についての相談や情報交換等に適宜行政担当者を訪問され、連携強化が図られています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを各ユニットに配置。研修や勉強会に積極的に参加し、職員全員が理解したうえで、身体拘束のないケアに取り組み、カンファレンスで検討している。事務所に「拘束及び虐待防止推進・実行委員会規定」を掲示し、常に意識を高めている。	身体拘束による弊害は全ての職員に深く浸透されており、日々のケアの中で実践されています。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会に積極的に参加して、職員全員が理解したうえでケアに取り組み、カンファレンスでも検討している。また管理者はストレスなどないか常に気を配り、個別に話す機会を大切にするなど、虐待の防止に努めている。同法人内の担当にも相談出来る体制である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や勉強会などに積極的に参加している。実際に成年後見制度を利用している入居者がおり、支援を行っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に本人・家族と面談を行い、意向や要望、疑問を十分に聞き取り、誠実に答えている。契約後も常に会話の機会を持ち十分に納得して貰っている。解約時も納得できるように説明を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者・家族から不安や不満などないか常に気を配り、要望があればいつでも気軽に言ってもらえる雰囲気を作っている。直接には言いにくい場合も考慮し、意見箱も設置している。運営推進会議でも意見や要望の聞き取りに努めている。声があればそれを管理者に報告し、運営に反映させている。	家族の訪問時に不安に感じられている事等の聞き出しや運営推進会議での意見聴取がなされ、出された意見等を記録・検証し必要な事項は、運営に反映させる取り組みがなされています。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや個人面談で各職員の話を聞き、それ以外でも意見や提案があればいつでも話ができるような時間を作っている。意見の言いやすい職場作りを努め、意見や提案があれば、検討して運営に反映させている。	定期的で開催されているユニット長会議や職員会議等において、意見・提言を聞き出す取り組みがなされています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の勤務状況など把握し、目立たない仕事を引き受けている職員にも目を配っている。得意分野を生かした担当を配慮し、やりがいを感じながら働けるように努めている。各職員は年に2回「自己評価表」を提出、賞与に反映させている。介護職員に対する処遇改善制度も利用して給与の向上をはかっている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎日が自分自身を成長させると職員には理解して貰い、ユニットのチームの中でお互いを刺激しあって向上して行くことを第一としている。OJTを取り入れまた法人内外研修などに積極的に参加し外部から学ぶということも大切にしている。上位資格の取得も支援、講習や研修への参加を推奨し、勤務日程の調節等に対応している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設の見学や奈良県内外での勉強会などでネットワークを拓けるように努力している。互いの意見を交換することで、サービスの質を少しでも向上出来るよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時より面談を行い、直接本人の希望や不安を聞いたり感じ取ったりするようにしている。面談の結果は記録に残し、職員全員が情報を共有できるようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時より施設見学や自宅訪問を通して面談を重ね、家族の希望や不安を聞き取り、受け止めている。面談の結果は記録に残し、職員全員が情報を共有できるようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている内容を受け止め、ケアマネや病院の相談員などと共に判断、その時々々に優先してすべき支援には柔軟に対応している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者を人生の先輩と思い、一緒に家事や食事作りなどを行いながら、日常生活を通して、入居者の喜び・悩み・思い・願いに共感し、自然な関係を作るよう努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時に家族と十分に話し合い、入居後も状態の説明や近況報告を随時行って、家族と信頼関係を築いている。又、家族会や夏祭りなど、家族も一緒に参加できる催しを企画するなど、共に本人を支えていくように努力している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、友人、知人の別なく、24時間の面会が可能であり、馴染みの人の訪問があれば時間を問わず受け入れている。外出の希望があれば家族の協力を得ながら実現できるように努めている。	馴染みの関係の維持・継続は、安定した生活を確保するためには不可欠との考えがあり、自由な面会時間の確保や地域サロンへの参加、家族の協力の下での買い物・理美容院の利用等弾力的な支援が図られています。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握、座席位置を調整したり、入居者どうしが自然に関わりあえるような環境作りに努めている。性格や認知力、気があう・合わないも考慮して、職員がさりげなく間に入り、孤立しないようになどに合わせて職員がさりげなく間に入り、孤立しないように常に見守り配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療行為や諸事情により退居に至った場合でも、面会や情報収集を行い、関係を絶ち切らない付き合いを大切にしている。契約終了後も、再度受け入れの要望があれば優先的にホームへ戻るよう配慮している。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	直接希望を尋ねるだけでなく、日々の会話や表情から、本人の思い・願いを自然な形で感じ取り、把握するように努めている。困難な場合は日頃の様子からおしはかり、家族と相談して、本人本位の支援が出来るよう検討している。	一人ひとりの日々の暮らしの中の言動や家族の意見の聞きだし等により希望・意向の掌握に努められています。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各入居者の経歴や経験を把握し、それを元にその人らしい生活が送れることを大切にしたい支援に努めている。これまでのサービス利用などの書類もカルテで管理して把握できるようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の変化には細心の注意を払っており、随時職員間で話し合い職員全員が状態に応じた支援を行えるように努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に状態の把握を行い、本人の意向や家族からの要望を反映し介護支援専門員と職員・看護師・医師・薬剤師が話し合い本人の意思を大切に介護計画を作成している。本人の参加が困難な場合は、家族や職員が日頃の様子から本人の意向を感じ取り、介護計画に反映させている。	介護計画作成と見直しの必要性を関係者は深く認識されており、常に現状に即した計画となる様取り組まれています。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中・夜間の生活の様子や気付きを個人のカルテや日誌に記入・記録し、情報を共有している。排泄チェック表・食事量チェック表・投薬チェック表・体重表等ともあわせて、介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族の要望に応じて同法人 奈良春日病院と連携をとり、受診の他、リハビリ・音楽療法・イベントなど柔軟な支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のサロンや自治会、地域の催しに積極的かつ継続的に参加している。運営推進会議の開催日に消防訓練を行い、入居者と共にメンバーも参加した。その後の会議で消防署員から防災についての説明を受け、地域での安全な暮らしへの支援に活かしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望があれば他の病院への受診を支援し、必要があれば同行して、医師に状態の説明・報告をしている。	かかりつけ医の選択については、本人の希望を優先されており、受診に際して職員の同行や生活情報の提供等適切な医療確保が図られています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が専従しておりいつでも健康管理、状態の変化を報告して対処出来る体制であり、往診時には必ず付き添っている。同法人奈良春日病院とは24時間連携が取れており、昼夜を問わず相談できる。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同法人奈良春日病院への入院に関しては、24時間常に連携を取っている為、主治医・医療福祉相談員と早期退院についても相談している。他医療機関に関しても、管理者・ユニット長など担当者が、本人と家族の意向に添えるように支援している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護に関する指針があり、入居契約時より本人・家族と話し合い、意向を確認している。本人の状態や家族の意向に応じて、主治医と話し合う機会を設けている。本人、家族、医師、看護師、薬剤師、介護支援専門員、職員全員で方向性を共有し、その人らしい時間を過ごせるよう、重度化に対応したチームケアを行い、支援に取り組んでいる。	終末期対応への明確な指針があり、関係者に理解・認識が浸透されています。なお、体調等の変化が見られる時には、その都度関係者で協議することとされています。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを事務所内の分かり易い場所に掲示、職員全員が緊急時の対応を把握できるように研修を行っている。奈良春日病院や奈良市消防署などの研修にも参加。AEDも設置、利用の実例もある。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を行っている。平成23年度は近隣住民にも呼びかけ、入居者・家族・地域住民も参加して、運営推進会議の開催日に消防訓練を行い、消防署員から訓練についての評価や防災の説明を受けた。災害時の連絡網訓練も定期的に実施。地域開催の防災訓練にも参加。緊急避難用具・災害用備蓄等にも努めている。	地元消防署の指導の下に、消火・避難訓練の実施と共に、地域住民への協力・支援の働き掛けがなされています。なお、スプリンクラーや緊急通報装置の設置等安全確保への配慮がなされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	すべての職員がプライバシーや個人情報を守ることの重要性を理解しており、個人の誇りやプライバシーを尊重した言葉かけや対応を心掛けている。個人情報などの記録はカルテに綴じ、事務所内で全て保管している。	人格の尊重を常に念頭に、一人ひとりに合わせた言葉遣いや語調等に配慮した対応がなされています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者一人ひとりの性格や理解する力に応じた言葉掛けや対応を行って、本人の意思や希望に基づいた自己決定をしてもらえるように支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の入居者一人ひとりのペースや体調に合わせて、本人の希望に添った支援を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の協力を得ながら、本人の希望する服を必要に応じて持ってきてもらい、日頃の身だしなみには職員も気を配っている。理容・美容は、希望者はカット・毛染め・パーマ等、毎月依頼している散髪の訪問サービスを利用している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	普段は半調理で納品される食材を使用しているが、月に数回は手作り料理の日を設け、献立・買出し・調理・盛り付け等、入居者と職員が共同で行い、食事を楽しんでいる。	調理の下ごしらえ・盛り付け・下・配膳等一人ひとりの能力に応じて協働され、また、嚥下力に合わせた調理に工夫がなされ、楽しみある食事への取り組みがなされています。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的に栄養士が作成した献立に基づいた食事を作っている。入居者の体調や体重の増減を考慮し、主食、副食、水分量を調節している。入居者の状態に応じて、一口大や刻み食にして、安全かつなるべく自力で摂取できるよう工夫している。夜間は居室に必ずお茶などを置き、時に応じて声かけをし、水分補給をすすめている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	同法人の口腔外科の指導の下、入居者の状態に応じた口腔ケアを行っている。毎食後に歯磨きや義歯の洗浄、うがいをしている。必要なときは声掛け、見守りをしている。義歯の方は、夜間入歯洗浄剤にて手入れを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の記録をつけ、一人ひとりのパターンを把握した上でさりげない声掛けで誘導、自然で快適な排泄が出来るよう支援している。	排泄パターンの把握・記録と行動観察によりトイレ誘導がなされ、自立排泄への支援がなされています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩などの適度な運動を心掛け、水分補給に気を配り、牛乳やヤクルト、バナナなど食物繊維の多い食品を摂取していただくよう努めている。自然排便の困難な方は、同法人内春日病院・主治医、薬剤師に相談、指示の下、薬剤による排便コントロールを行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望や生活ペースに合わせ、またその日の状態をよく観察して、入浴を安全かつ楽しく気持ちがいいと感じてもらえるような援助を行っている。	入浴時間帯の設定も無く、一人ひとりの希望に合わせた支援がなされています。なお、夜間入浴支援体制も確保されています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活リズム・睡眠パターンに応じて、安眠策をとり、安心して眠れるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時には薬剤師の指導を受けており、入居者一人一人のカルテに服薬薬品名カードを綴じいつでも薬の目的や副作用、用法、用量が確認出来るようにしている。変更時などは管理日誌や申し送りノートに記載して、職員全員が把握するようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	読書や歌・塗り絵などの趣味や、洗濯物・配膳・生活用品の受け取りなどの家事、苗植え・水やり・収穫といった畑仕事などをすることで、入居者がやりがいを持ってその人らしく、充実した日常生活を送れるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望やその日の体調にあわせ、時には家族の協力も得て、散歩に出掛けたり、日光浴、花や畑の水やり、お茶などに誘い、戸外で過ごす機会を作っている。地域のサロンや催し物には、本人の希望や体調を考慮したうえで、積極的に参加している。	外気に触れる事の有効性を理解され、周辺散歩の日常化への取り組みや畑の水やり・地域のサロンへの参加等外出機会の確保に努められています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの入居者が日常的にはお金を所持していないが、買い物や旅行の際には財布を渡し、支払いを行ってもらっている。フリーマーケットや夏祭りなどで金券を発行したりして、金銭授受の支援をしている。ご家族の希望により現金を事務所で預かっている入居者については、本人が買い物した領収書は事務所に保管し、本人・家族が常に確認出来るようにしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、グループホームの電話を使用している。年賀状など、本人の能力に応じて貼り絵や色塗り、メッセージ記入を支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般家庭にあるような家具などを使用している。窓の外にリュウキュウアサガオを植え、夏の日差しを和らげ、かつ季節感を感じられるよう工夫している。お正月、節分、雑祭り、鯉のぼり、七夕、クリスマスなど、入居者と一緒に季節にちなんだものを作成し、飾ったりして季節感を演出している。	共用空間は清掃が行き届き清潔感があります。また、室温や採光への工夫とともに、季節感を演出した装飾がなされ、穏やかに過ごせる場所となっています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外にソファを設置し、好きな場所で個人や気の合う方と過ごせるようになってきている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には普段使っていた家具、生活用品を置いている。家族の写真を置いたり、お気に入りの服や使い慣れた鞆などを、生活に支障のない程度で自由に持って来てもらっている。	使い慣れた家具や好みの品が持ち込まれ、居心地良く過ごせる居室となっています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室に手摺りを設置しており、入浴時には浴槽内に滑り止めを使用している。個人の身体能力に合わせて居室の家具の配置を工夫している。又、本人の認知能力や性格を理解したうえで、居室やトイレ・席に表札や写真など目印にして、行きたい場所がわかりやすいようにし、出来る限り入居者本人の力を生かし、生活を送れるよう援助している。		